

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名

いやなが保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「虫さんなにしているの？」2歳児

<テーマの設定理由>

当保育園の周りは畑、公園など自然が多い。散歩先では、子どもたちはダンゴムシ、アリ、カマキリなどをみつけ、しゃがんでじっと見ている。子どもの虫たちへの探究心をさらに育みたい。

2. 活動スケジュール

【4月】テーマ決定、問いの検討、環境デザインの検討

【5月】探究活動の実践/7回、散歩研修、「春の虫を呼ぶ園庭」化への助言をもらい環境設定をする。

・散歩中に虫を観察する。(ダンゴムシ・チョウ)

【6月】探究活動の実践/4回、ピオトープの環境設定

・散歩中に虫を観察する。保育者が捕まえた虫を観察する。(チョウ・バッタ・カマキリ・カタツムリ・メダカ)

・ピオトープ(園庭に作った池)にメダカを放す

【7月】探究活動の実践/4回、野菜についた害虫を駆除する。

・散歩中に虫を観察する。保育者が捕まえた虫を観察する。(チョウ・バッタ・カマキリ・セミ・カナブン)

・メダカの観察・エサやり

【8月】探究活動の実践/9回

・保育者が捕まえた虫や、めずらしい標本を観察する。(チョウ・標本のコーカサスオオカブトムシ)

・メダカの観察・エサやり

【9月】探究活動の実践/5回、途中経過のまとめ

・保育者が捕まえた虫や、めずらしい標本を観察する。(標本のタマムシ・アゲハチョウの羽化・トンボ)

【10月】探究活動の実践/2回

・散歩中に虫を観察する。保育者が捕まえた虫を観察する。・(カマキリ) フォトブック「うまれたよ!カマキリ」を見る。

【11月】探究活動の実践/2回 職員・保護者・地域の方に報告

・虫の産卵しそうなお腹を観察する。卵鞘を観察する。(カマキリ) フォトブック「うまれたよ!カマキリ」を見る。

【12月】飼育ケース等の清掃、片付け

【1月】「羽化に失敗したチョウの冬越し方法」と「ピオトープの冬季管理」についての講師助言を実施する

【2月】振り返り、記録の整理

【3月】まとめ 職員・保護者・地域の方に報告

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【虫・生き物に親しみ、その動きや変化に興味をもつために】

(虫・生き物)

・ダンゴムシ・カタツムリ・カマキリ・バッタ・カナブン・セミ(成虫・抜け殻・卵鞘)

・モンシロチョウ・アゲハチョウ(卵・幼虫・蛹・成虫)

・メダカ・タニシ

(標本)・カブトムシ・タマムシ

【羽化の様子などの虫の変化(変態)を実際に観察後、もう一度見て確かめられるように】

(写真の絵本)「うまれたよ!」岩崎書店(ダンゴムシ・カブトムシ・カマキリ・モンシロチョウ)

(絵本)「かわいいむしのえほん」童心社(全10巻)

(観察用具)・散歩中に捕虫し観察する透明の容器・虫かご

【園庭に虫を呼びこむ植物・生き物を飼育する環境】

・ピオラ・シソ・ヒマワリ・マリーゴールド・カタバミ・ピオトープ・水草

【子どもの探究活動を支える職員向けに】

(散歩研修)・ハッピートンボ池にて、学園野鳥公園にて 講師:プロナチュラリストの佐々木洋先生

(図書)「NHKモリゾーキッコロ森へ行こうよ!会える!虫図鑑」宝島社

「なぜダンゴムシはまるまるの?」講談社

「家族で見つける街の虫取りハンドブック」岳陽舎

「となりのミステリー生物ずかん」時事通信社

「初等教育資料」2025年5月号 文部科学省

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・虫の動きや体の変化（卵・幼虫・蛹・成虫・卵鞘）を観察

散歩中に虫を発見し止まって見た。保育者の手にのせた虫を見た。小さな透明な容器に入れて間近に観察あいた。さらに、虫のフォトブックを繰り返し見ること、虫の動きや体の変化に興味をもつ様子が見られた。

・ビオトープのメダカ観察

保育者と一緒にメダカをビオトープに放した。登園直後や日中に、メダカの様子を見に行ったり、エサをあげたり、メダカに名前をつけて呼びかけたりするなど、継続的に関わる姿が見られた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・初めは虫を怖がったり近づこうとしない子もいたが、周りの友だちが怖がらずに観察している様子を見て、少しずつ慣れていき、自分から虫に触れたり近づいてじっくり観察するようになった。

・子どもたちから「おうちはどこかな?」「今はなにをしているのかな?」といった虫の生活を想像する声が聞かれるようになった。友だち同士で「虫のおうちはここだよ」と話し合うこともあり、虫への興味が広がるようになった。

・虫の動きや鳴き声を真似して楽しんだり、「かたつむり」の歌を歌って手遊びをすることも見られるようになった。虫の写真の絵本を「読んで」と持ってくるようになった。実際に虫を見たあとには持ってくるようになった。

・幼虫から蛹、成虫へと変化する成長過程を観察することで、虫の不思議さや面白さを感じられるようになった。虫を身近に感じることで、プランター野菜について虫にも関心や疑問をもち、友だちと話し合ったり自分の考えを伝え合うようになった。

・散歩中に腹部の大きなカマキリを保育者が捕獲した。後日、カマキリが白い泡状の卵鞘を産み付けている様子を観察した。保育者が「春になったら赤ちゃんが生まれるのよ」と伝えると、子どもたちは興味津々な様子で観察していた。また、フォトブックを子どもたちの身近に置いたことで、カマキリの産卵の様子について、より関心をもって見る事ができた。



アゲハチョウの幼虫・蛹からの羽化の観察

バッタの観察

メダカの放流

カマキリのお母さん

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

・園庭に植物やビオトープ環境を整えることで虫が集まり、窓越しで見やすい環境のなか多くの観察や発見ができた。

・「本物の虫」と「写真や絵本の虫」との違いに興味をもつ姿が見られ、2歳児は本物への探究心があることを感じた。

・最初は虫に興味がなく、怖くて近づかなかった子も、周りの友だちが興味を示している様子を見て挑戦したり興味をもつようになった。周囲の環境によって子どもの興味の世界がどんどん広がった。

・保育者自らが虫に対して興味をもち、楽しく触れ合いながら取り組むことで、子どもたちも興味をかき立てられるようになった。子どもたちは、すすんで虫を見つけたり触れ合ったり、虫の絵本を読んだりするなど、虫への関わりが意欲的になった。

・虫が苦手な子どもを含め、保育者自身が虫や自然について学び、身近な環境を整え、「何しているのかな」と問いを投げかけることで、子どもたちに自然への探究心がより深まったと感じている。

・さらに、保護者にInstagramや連絡帳により活動を伝えた。親子の会話のきっかけとなり、子どもたちが探究心をもって活動していることや子どもへの理解が深まったように感じられた。